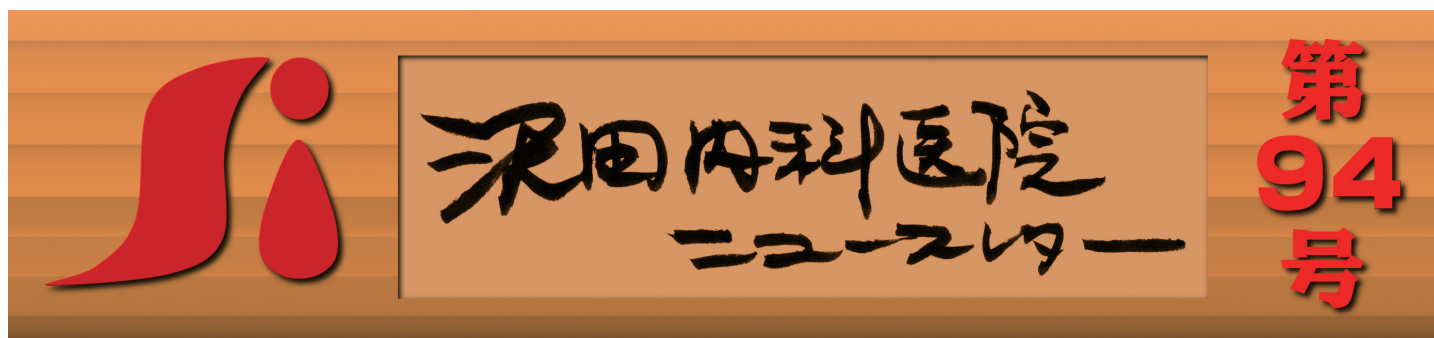




弘前四中の職場体験

6月28日から3日間、弘前四中2年生が沢田内科医院で職場体験をしました。今年も、私は学校訪問や医師会の仕事で十分な対応ができませんでした。胃内視鏡検査の時に見学してもらったり、何人か診察の介助をしてもらっただけでした。病棟の仕事や薬局の仕事など、医院の全般的な体験は、井上真利子婦長を初めとしてスタッフがカバーしてくれたと思います。

6月29日の水曜日午後には医院が休診でした。学校へ帰るまでには時間がありましたので、医院から出て発展的な職場体験をしました。近くに弘前市内でも有名なアイスクリーム店がありますので、そこでソフトクリームを食べました。これを、井上婦長が「裏職」と名付けました。学校の先生には内緒ですので、「裏職場体験」です。写真を見れば分かりま

すが、多分、これが最も楽しかった職場体験じゃなかったかと思いました。

長内結杏さんと小野真和さんです。私たちの医院は弘前四中の学区内ですので、結杏さんは小さいころからワクチンの注射などで医院に来ていました。真和さんは、



自己紹介の時に、「これでも”まどか”言います！」とジャージに書かれている名前を見せてくれました。



後ろ左から、澤田さやかさん、井上真利子婦長
前左から、小野真和さん、長内結杏さん

先日、弘前四中を訪問した時に、ふたりの職場体験の写真が掲示されていました。これから報告書を書くようですが、普段は患者さんとして医院の表を見ていますが、今回は医院の裏で何が行われているかが見れたことでしょう。少しでも参考になれば幸いです。

キラリ! 放送大学



放送大学で取材に来たことは前回のニュースレターでお知らせしました。小堀未希さんを主役にした15分の番組が完成して放送されました。インタビューを受けた人など、関係した人たちには、番組のDVDが送られてきました。

かなりの長い時間の取材でしたが、たった15分の番組に編集されています。テレビや新聞は取材を受けても、部分的に切り取られたりくっつけられたりして、報道される内容が自分たちが思っていることと違うことがよくあります。でも、今回の番組はそんなことはありませんでした。

前の日に放送大学のスタッフと一緒に食事をしていろいろな話をしたり、撮影以外でも雑談をしたりし

て、私たちが行っていることがよく伝わったのだと思います。ダブルスクールを始める時のことや、関連して出てきたいろいろな成果の話をしましたが、「15分の番組では、そこまでは入れられません・・・」というくらいでしたから。

番組の内容は、放送大学を卒業した人が、いろいろな分野で活躍しているのを知ってもらうことです。まず、小堀さんが准看護学科で講義する映像が流れ、その後、沢田内科医院での診療風景が放送されました。小堀さんが高校を卒業した後、働きながら准看護師になり、さらに看護師になったことが紹介されています。その後、放送大学へ入学したきっかけ、勉強している上で困難だったことなどインタビューが続きました。映像でも出ますが、小堀さんは小学校の卒業アルバムに、将来の夢として「先生」と書いていました。これが看護学校で実現されたわけですね。

続いて、看護学士の学位を授与されたこと、日本糖尿病療養指導士に認定されたことが紹介されました。その後、在校生の千葉亜衣さん、木村友美さんのインタビューが放送され、小堀さんがダブルスクールの学生に対してアドバイスをすることで終わりました。



小堀未希さん個人に焦点が当てられていますが、弘前市医師会看護専門学校の内容が少し分かりますし、昨年からはまった放送大学とのダブルスクールのことが放送されましたので、高校生が弘前市医師会看護専門学校に一人でも多く応募してくれるように活用したいと思います。

この番組の内容は、放送大学のホームページでも動画で見ることができます。ぜひご覧になって下さい。放送大学のホームページ>動画チャンネル>大学情報>大学の窓>2016年度の番組、とクリックするとアクセスできます。

弘前市教育委員

6月に弘前市教育委員に任命されました。何ごとも断れない性格を知ってのことなのか、思いもよらないところから話が出てきて、話を聞いているうちに引き受けることになってしまいました。

学校と市役所が相手ですから、ほぼ全部が日中の仕事です。それも、午前中も！！そこで、引き受ける時に条件を付けました。会議は水曜日から金曜日の午後にする、学校訪問は都合がつく時だけ参加すること、のふたつです。水曜日と金曜日の午後は自分の時間を確保するために休診にしていたのですが、最近は、ほぼ何かの予定が入ってしまいます。これで、自分の時間を持つことはほぼ絶望的になってしまいました。

弘大医学部や臨床研修医の教育、医師会看護専門学校の教育、医院の職員の教育など、人を育てることに少しでも貢献しようと思ってやってきました。中学生の職場体験は引き受けていましたが、これまでは大部分が大人相手のことでしたので、教育委員にという話を頂いた時に、小中学校の教育に関与することも面白いなとも思いました。

ということで、教育委員を引き受けることにしました。今回、市の教育委員会に誘われたことにたいして、医師会の先輩の先生から、「先生は普段から、教育委員にして下さい、というようなことをしてるんだからしょうがないんだよ」と言われました。教育委員会の人から説明を聞いている時も、これまで自分がやってきたことを考えると、断る理由が見つからないなと思っていました。

弘前市内には、市立の小学校が35校と中学校が16校あります。早速、6月27日から7月14日までの予定で学校訪問が始まりました。基本的に朝から午後にかけて3校を訪問するのですが、私は、午前5回、午後は8回参加することにしました。午前中の学校訪問の5回は、代わりに木村あさの先生と私の長男の直也が診察します。

学校訪問は、すべての学校を年に1回訪問するのですが、今回は29校を訪問し、残りは10月に訪問する予定になっています。自分の子どもの参観に1回しか行ったことがないくらいですから、学校の実情が分かるはずありません。教育委員会がどのような組織なのかもちろん知りませんでしたが、何回かの会議と学校訪問をしてみて、大事な組織であるこ

とが少し理解できました。

私は、弘前市医師会看護専門学校で看護学生の教育に関与しています。私たちの学校には基礎学力が身につけていない学生がたくさん入学してきます。これは特殊な例ではなく、ごく普通のことです。例えば、小学校5年程度になれば、子どもの算数を見てやれない保護者がたくさんいます。これは、中学校で教わったことが身につけていないためです。そして、高校もそのまま卒業してしまいますから。教育委員会では、このあたりに注意しながら見ていこうと思っています。

また、発達障害もよく考えてみようと思っています。高校卒業生を受け入れる看護専門学校でも発達障害が問題になることがあります。通常の児童生徒の6%程度が広い意味での発達障害だと言われていますし、知的障害や言葉の問題を同時に抱えていることが多いので、この点にも注目していこうと思っています。

教育委員の任期は4年ですので、自分の体力と気力が続くあと4年は社会に貢献できるような活動が続けることに決めました。

国立病院の前田泰規先生が研修

弘大医学部を卒業して国立弘前病院で初期研修をしている前田泰規先生が地域医療研修に来ています。7月末までの1ヶ月の予定です。国立病院臨床研修委員会では外部評価委員でしたが、臨床研修施設が足りないために研修医を引き受けることになりました。

沢田内科医院での研修は地域医療研修ですので、初期診療を経験するのが目的です。何か特殊な検査技術を経験したり身につけたりするのが目的ではありません。国立病院では、外来患者さんを診

察する機会は救急だけのようなので、まず、外来患者さんの病歴を聞いて病気を診断するコツを伝授すること、検査機器ではなく自分のからだで所見を取ることを目的にしました。

前田先生は医師になって2年目、やさしい性格で行動もやさしく、腹部を触診する時も膝や足の腱反射を調べる時もやさし過ぎてうまく所見が取れないことが少なくありません。腱反射で膝を小さなハンマーで叩く時も、力が弱くて上手く反射が出ません。患者さんに、「私の強さが10だとすれば、前田先生の叩く力はどれ位？」って聞くと、「6くらいかな・・・」と。声も小さくて、研修医の中には薬局まで話声が聞こえる人もいましたが、前田先生の声は、隣で診察していてもちょっと聞き取りにくいぐらいです。

将来は耳鼻科医になる予定とのこと。どんどん経験して自信をつけると、腱反射のハンマーの力も強くなるでしょうし、声も大きくなると思います。



左から、一戸あかりさん、米谷真琴事務長、前田泰規先生、相馬知香さん、井上真利子婦長、澤田さやかさん

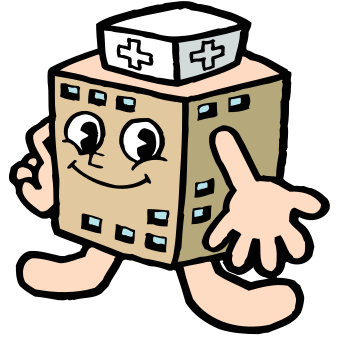
弘前市医師会副会長

平成18年から弘前市医師会理事として活動してきましたが、この6月の医師会総会で副会長に選出されました。選出といっても、定員の数だけしか立候補がありませんでしたので、そのまま承認されたということです。政治の世界でもありませんし、選挙で勝ち進んでという組織であれば出ることはありません。

担当は、検査部門を含めた健診センター、医師会の人事関連、感染症対策、救急災害対策、公害産業医、情報システムなどです。直接の仕事は担当理事が行いますので、副会長は全体をまとめるのが役割です。これまでの分野からちょっと広がりましたので、会議の回数は増えますが、むしろ気は楽になりました。

医師会の仕事は基本的に夜に行われますので、体力があれば何とかなります。問題は医師会以外での仕事です。弘前市役所関連の会議は日中に行われますので、診療を留守にして出かける必要があります。これまでもありましたが、その間は診療を休止するか、場合によっては診察を他の医師にお願いしていました。多分、これからはもっとそのような機会が多くなり、診療を休んで出かけることが多くなると思います。

弘前市医師会は、臨時職員を含めると約130人の職員を抱える結構大きな組織です。市民のがん検診、特定健診、後期高齢者健診はもちろんですが、会社で働いている人たちの健診なども行い、規模は小さいのですが介護事業も行っています。また、急患診療所もありますし、看護専門学校では280人の看護学生が勉強しています。



個別のがん検診、特定健診、予防接種などは医師会員の診療所で行っていますし、会員は学校医としても活動するなど、いろいろな公共的な仕事をしています。これらの事業は弘前市医師会が中心となって運営されています。

医師会の会長や副会長、理事というのは専任の仕事ではなく、ほぼボランティアです。もちろん、それぞれの医院の仕事がありますので、積極的にやりたいとやっている人は私も含めて少ないのが実情です。でも、医師会の役割を考えると誰かがやらなければならない重要な仕事ですので、副会長としての役割をしっかりと果たそうと思っています。

医院でのこぼれ話 『お腹の中の不良在庫』

医院の近くで米穀店を経営する齋藤誠さん(仮名)に、超音波の検査結果を説明していた時のことです。

私 : 「超音波では、肝臓が白くなっていて脂がかかっています。」

齋藤さん : 「油は売るほどあるんですよ！」

私 : 「齋藤さんはお米を売ってるんですよね！」

齋藤さん : 「油も売ってるんです」

私 : 「灯油も売ってましたよね」

齋藤さん : 「ということは、腹に不良在庫を抱えてるということですね！」

この後、若い看護師も巻き込んで、「油を売る」ってどういうことかという話になり、ついつい診察時間が長くなってしまいました。

